

図1



図2



前列：左から山内, Metchnikoff, Metchnikoff夫人, Salimbeni, Burnet,
後列：ロシア人科学者たち

表1— ウイルス発見の歴史:1919年まで

年代	ウイルス	発見者	使用動物
1897	口蹄疫ウイルス タバコモザイクウイルス	Loeffler, F. Beijerinck, M.	牛 タバコ
1898	ウサギ粘液腫ウイルス	Sanarelli, G.	ウサギ
1900	黄熱ウイルス	Reed, W.	人
1901	鳥インフルエンザウイルス	Centanni, E.	鶏
1902	牛疫ウイルス オーエスキーウイルス 羊痘ウイルス	Nicolle, M. Aujeszky, A. Borrel, A.	牛 豚 羊
1903	豚コレラウイルス 狂犬病ウイルス	Dorset, M. Remlinger, M.	豚 犬
1904	馬伝染性貧血ウイルス	Vallee, H.	馬
1905	イヌジステンパーウイルス	Carre, H.	犬
1908	ニワトリ白血病ウイルス	Ellermann, V.	鶏
1909	ポリオウイルス	Landsteiner, K.	サル
1911	ラウス肉腫ウイルス	Rous, P.	鶏
1912	麻疹ウイルス	Anderson, J.	サル
1917	ナイロビヒツジ病ウイルス	Montgomery, R.	羊

注: これ以外に風疹ウイルスが1914年にA. Hessが発見したと言われているが、彼の原著はサルへの接種実験のみで細菌濾過器を通過させたことは述べられていない。一般には札幌小児病院の弘好文と田坂重元が1938年ドイツの学術雑誌に発表した報告が風疹ウイルスの発見とみなされている。